

2 サタデーセミナー

2. 1 環境に配慮した繊維の調達について（家庭科分野）

(1) 研究開発の課題（研究概要）

持続可能な開発のための教育とグローバルな視野を広げるために、海外企業であるパタゴニアの環境プログラム・ディレクターを招いてサタデーセミナーを企画した。

(2) 研究開発の経緯

昨年度の講師であるNPO法人日本ファイバーリサイクル推進協会の木田先生から、リサイクル繊維を利用した製品を販売しているパタゴニア日本支社を御紹介いただいた。最高の製品を作り、環境に与える不必要な悪影響を最小限に抑える経営理念を基に、リサイクルに配慮した環境にやさしい素材の開発についての講演を依頼した。

(3) 研究開発の内容

ア 仮説（ねらい、目標）

グローバルな視野を広げ、持続可能な社会への興味関心を高める。新しい繊維、リサイクルに配慮した環境にやさしい素材の開発、自然と共存しながら行う持続可能な取組について知る。

イ 研究内容・方法

学校設定科目「SSH家庭」（1年生）の内容ではあるが、昨年度に引き続く内容であるため、2年生にも募集をした。

演 題 「環境に配慮した繊維の調達について」

参加者 1年生17名 2年生7名 計24名 教職員11名

日時・場所 2月1日（土）13:00～15:00 化学講義室

講 師 パタゴニア日本支社 環境プログラム・ディレクター 篠 健司 先生

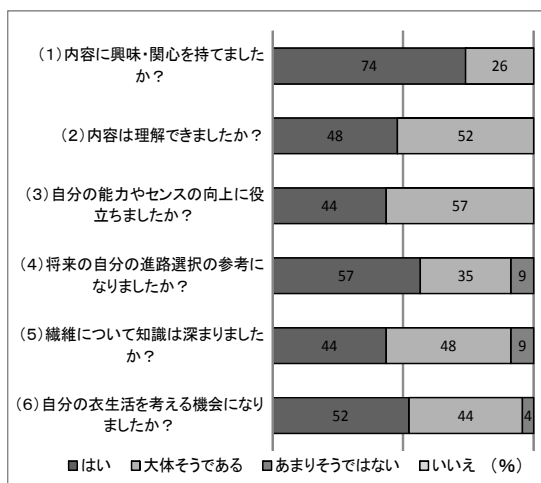
内 容 再生ポリエステル、植物由来成分で使った素材のウエットスーツ、草原を修復するために放牧して調達するメリノウール、オーガニックコットンの利用、コットンからバイオエタノールに再資源化、再生可能な資源の有効な利用。

5Rの推進、建物も環境に配慮していること、フットプリント・クロニクル



講演の様子

(4) 検証（成果と反省）



生徒の感想から

- ・地球のことを考えて新たな素材ができていてを知って、環境に優しい取組に興味を持った。
- ・大量社会における弊害とそれに対する企業の取組について、詳しく知ることができた。今までは安い製品を購入しようと思っていたが、今回の講義を受け環境に配慮しているかどうかも念頭に置きたい。
- ・繊維の深さ、企業責任のあり方を知ることができた。企業の形態や世界の広さを学ぶことができた。
- ・「ルールを破りながらうまくやる」パタゴニアの創業者の言葉に深い含蓄を感じた。

講演終了後、数人の生徒による熱心な質疑応答がなされた。海外企業日本支社での語学力、リユースやリサイクルを奨励する企業の取組など、将来の進路と結びつく内容もあった。2014年11月、名古屋市で「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」が開催される。本校生徒・教職員にとって環境問題を見直し、持続可能な社会について考える良い機会となった。